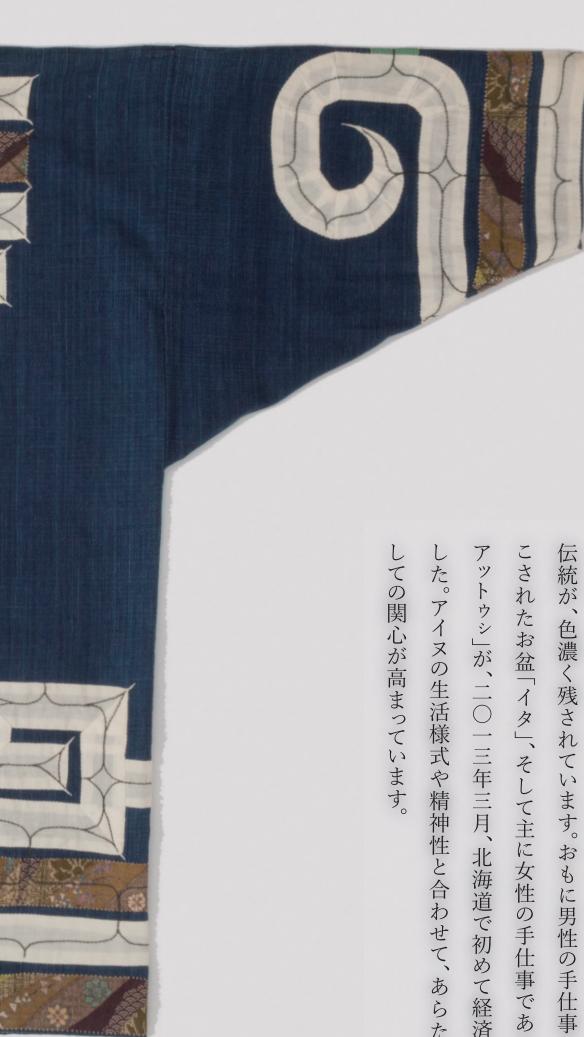


二風谷イタと二風谷アツトウシ

日高地方・平取町二風谷の沙流川流域には、アイヌ文化に脈々と受け継がれてきた手仕事の伝統が、色濃く残されています。おもに男性の手仕事とされる木彫のうち、多彩な文様がほどこされたお盆「イタ」、そして主に女性の手仕事である、樹皮から糸をとり織り上げる反物「アツトウシ」が、二〇一三年三月 北海道で初めて経済産業省の「伝統的工芸品」に指定されました。アイヌの生活様式や精神性と合わせて、あらためて二風谷の伝統工芸、アイヌ文化に対する関心が高まっています。



ルウンペ
テーブ状に切った布を折り曲げて文様の形になる
ように置いていき、その上から刺繍をほどこす手法。

イタ

「イタ」は、もともと文様が際立つ木彫の工芸品といえるでしょう。アイヌ語で「モレウノカ」という渦巻型の文様や、「アイウシノカ」という棘状の文様、「シクノカ」という目のような文様が組合わさって美しいアイヌ様式の模様を作ります。



貝澤 竹子 ハンテン 羽織 210,000円

さらに、二風谷イタには必ず「ラムラムノカ」というウロコ彫りが、文様の隙間を埋める様に彫り込まれています。かつてのアイヌの人々の暮らしの中での作品は日用品として、現在は現代作家による緻密な工芸品として存続しています。

イタ



アツトウシ

「アツトウシ」は、オヒヨウ(ニレ科の樹木)等の内皮を糸にして織られた反物を仕立てた着物です。仕事の大半を糸作りが占め、煮たり漬けたりして柔らかくした樹皮の内皮を、手で細く裂き、結び合わせます。樹皮は均一に咲く必要があり、作り手は指の感覚だけで太さがわかるといいます。織り手の体と織り機を固定させて織る方法や道具は、百年以上前からほぼ変わっていません。

表紙の商品
貝澤 徹
イタ 80,000円